

## 特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの 作成に関する研究 2

—視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害児の授業に  
おける配慮点を活用した教員養成におけるより有効な指導法の開発—

### The Study on the Development of the Program to Train Teachers for Special Needs Education from a Perspective of Instructional Methods (2)

—The Development of the Effective Instructional Methods in Teacher  
Training Utilizing the Points to be Considered When Instructing Children  
with Visual Impairments, Hearing Impairments, Intellectual Disabilities,  
Physical Disabilities, Health Impairments, and/or Developmental  
Disorders —

川戸明子 太田 仁 伊丹昌一 阿部晋吾 福井 斉  
(梅花女子大学心理こども学部)

KAWATO Akiko OTA Jin ITAMI Shouichi ABE Shingo FUKUI Hitoshi  
(Faculty of Psychology and Children's Studies, BAIKA Women's University)

[キーワード]・特別支援教育実践・授業における配慮点・教員養成

**Keywords:** Educational practice for special needs education, Points for consideration in lessons, Teacher training

#### はじめに

2014年度紀要「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」及び、2015年度紀要「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」において、「ふりかえりシート（教室版）」を活用して、特別支援教育で必要な配慮点について知ることを目的に調査を行い、2014年度の大府立支援学校の初任者との比較を行うことで、教育が行われている特別支援学校でより必要とされている基本的な配慮項目を特定した。

今年度（2016年度）は、2015年度紀要「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」に引き続き、「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究 2」として、2014～2016年度3年間の調査結果を分析し、初任者において経験の多い配慮事項について、その基本的な配慮事項の理解や実践を大学の授業の中で、どう取り入れることが有効であるかについて調査研究を行った結果をまとめた。

多様な特別支援教育の現場におけるニーズに合致した実践力を育成するために必要なプログラムを作成し、授業に活用し、その成果を検証した。

#### 現状と課題

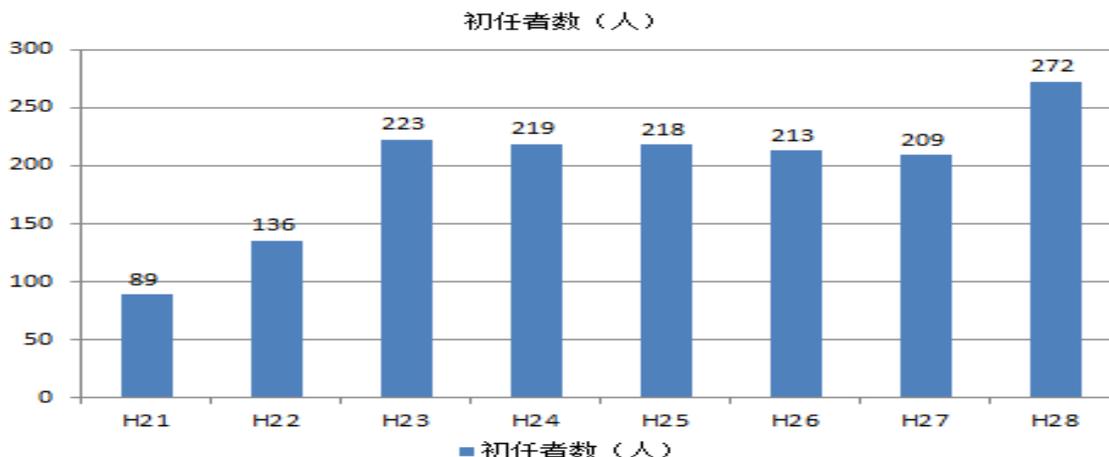
今日の特別支援学校において、以下の点に対する早急の対応が求められる。

1. 特別支援教育を必要とする児童生徒の増加（特に知的障害を対象とする特別支援学校と知的障害を対象とする特別支援学級）
2. 日常の学校生活における発達障害等特別な支援を必要とする子どもへの配慮の必要性の高まり
3. 通常の学級における障害種別に応じた合理的配慮の必要性
4. 上記3点の必要性を補完するために教員は増員されたが、特別支援教育に関する専門性が十分に担保されていない（[図1][図2]）
5. 特別支援教育の免許を取得させる大学の急増で、教員養成プログラムの整備が不十分

上記の課題は、依然として未解決であり、支援を要する児童生徒とその学級や学校全体の互惠性を形

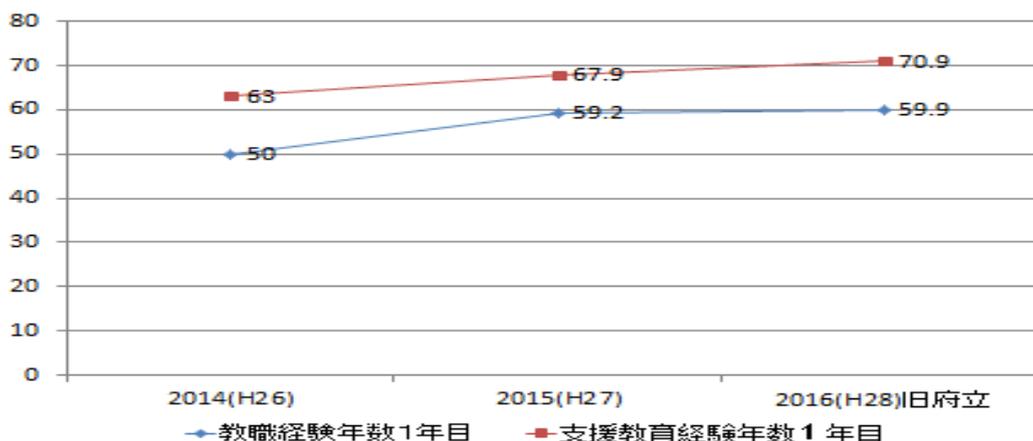
成する上でも重大な問題である。

【図1】 大阪府立支援学校の初任者数



\* 平成28年度から大阪市にある大阪市立特別支援学校12校が府に移管されたため、大阪府立支援学校は、合計44校となり、初任者数は371人となった。

【図2】 大阪府立支援学校の初任者の教職経験1年目と支援教育経験年数1年目の割合の推移(%)



\* [図2]は、3年間の研究比較のため、平成28年度のデータについては、以前(旧)の大阪府立支援学校32校の調査データを用いている。

梅花女子大学心理こども学部心理学科においては、2013年度から、特別支援学校教諭免許状の取得を目指すコースを設置した。この免許を取得することにより、卒業後、これまで得た知識や実践を有効に活用する機会が得られるものと思われる。

2016年度は、コース設置から4年目となる。

学校における授業改善の取り組みは、日々の授業をどのように計画、実践し、どう評価したかを振り返り、自己の授業を見直し、次の授業をよりよく実践していくことに繋がらなければならない。

本研究は、大学段階での特別支援教育についての知識や経験を増やすための教員養成プログラムの作成をめざすものである。

川戸・太田・伊丹(2013)は、授業の流れに沿った障害種別ごとの児童生徒への配慮点に焦点を当て、経験の少ない教員が授業における配慮点を理解し、指導に生かすことを目的として、大阪府立支援学校(以下「府立支援学校」)の管理職や教員の協力を得ながら5年かけて作成した配慮事項を一覧表として示し、自己チェックできる「授業改善にむけてのふりかえりシート」(以下「ふりかえりシート」)を作成した。

本研究の目的は、2013年度からの研究の成果を基に、「ふりかえりシート」を用いて、これから特別支援教育に携わる教員を志す大学生のために、特別支援教育における基本的な学習プログラム作成を、

授業に活用し、その成果を検証することにある。

## 方法

以下の3つの方法により取り組んだ。

方法1：大学生と大阪府立支援学校初任者との「ふりかえりシート」調査（質問①・質問②）による3年間の比較（今回は、知的障害の配慮事項について取り上げた）

方法2：梅花女子大学における特別支援教育免許状取得を目的とする特別支援教育演習受講の学生への複数回の「ふりかえりシート」調査による個人の変化の分析

方法3：知的障害教育における指導法の講義の中で、「ふりかえりシート」を活用し、配慮事項の具体的な指導方法とその理由について学生にグループワークさせた。

## 研究調査結果

方法1について：大学生と初任者の3年間の比較調査については[表1]の通りである。

[表1] 方法1「大学生と大阪府立支援学校初任者との比較」調査について

調査年度	2014(H26)年度	2015(H27)年度	2016(H28)年度
調査時期(大学生)	4月下旬～H27.2月中旬	4月下旬～9月下旬	4月下旬～9月下旬
(初任者)	6.18～9.25	5.15～7.25	5.10～7.23
調査対象(大学生)	300/307人(3大学)	246/276人(3大学)	187/267人(3大学)
回収率	97.7%	89.1%	70.0%
(初任者)	184/212人	196/209人	237/272人(旧府立)
回収率	86.8%	93.8%	87.1%
調査形態	質問紙構成 回答用紙は別紙	同左	同左
調査方法(大学生)	講義中に配布・回収	同左	同左
(初任者)	郵送配布・返送	同左	同左

\* 質問紙構成：「授業改善に向けてのふりかえりシート（教室版）」回答用紙は別紙とし、巻末に掲載（[表6][表7][表8][表9]参照）。

\* 調査の実施方法：大学生については、講義中に「ふりかえりシート」を配布し、その場で回答を求め、回収した。府立支援学校初任者については、学校に郵送して後日調査票を郵送にて回収した。

### 方法1-1) 結果：大学生と初任者との比較「質問①知っている障害種別は？」（[図3]参照）

初任者と比較すると、大学生の方が知っている割合が高い。

また、3年間の平均でみると、大学生が、知っている順番は、

① 発達障害 ② 知的障害 ③ 聴覚障害 ④ 視覚障害 ⑤ 肢体不自由 ⑥ 病弱の順になる。

初任者が、知っている順番は、

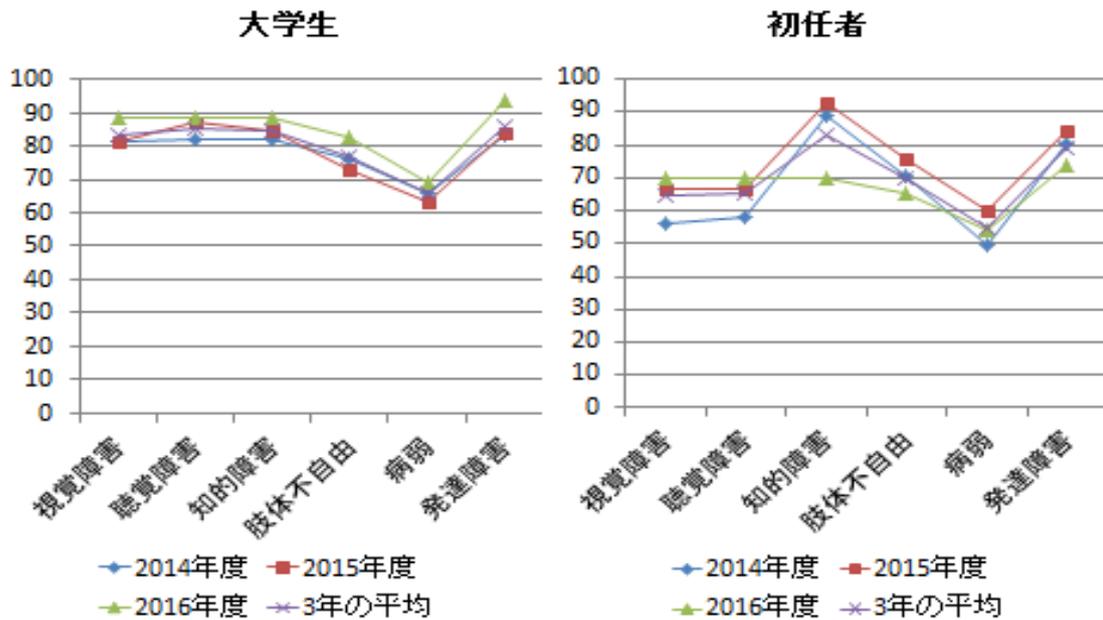
① 知的障害 ② 発達障害 ③ 肢体不自由 ④ 聴覚障害 ⑤ 視覚障害 ⑥ 病弱となる。

いずれも「知っている」が少ないのは病弱であり、大学生 65.8%、初任者 55.1%となっている。

その理由は、初任者については、学校数や配置人数が影響していると考えられる。（大阪で、児童生徒数が最も多い知的障害対象の学校が23校（知肢併置校5校を含む）あり、初任者も多く配属されている。また、最も少ないのが病弱対象の支援学校2校である。）

大学生については、病気の子どもは外見では分かりにくい場合があり、病院に入院している状況も知らない場合が多いためであると考えられる。

【図3】 質問①「知っている障害種別は？」



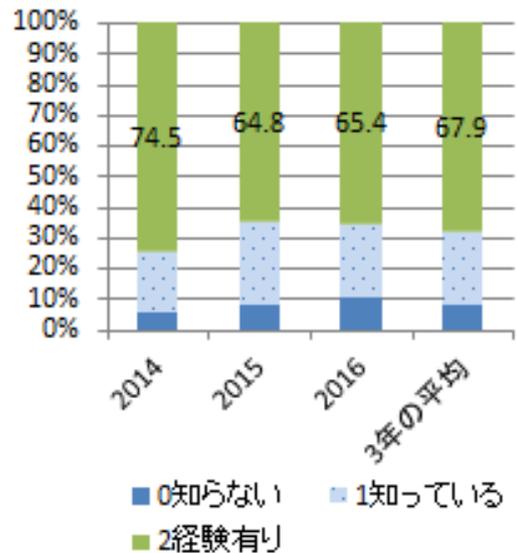
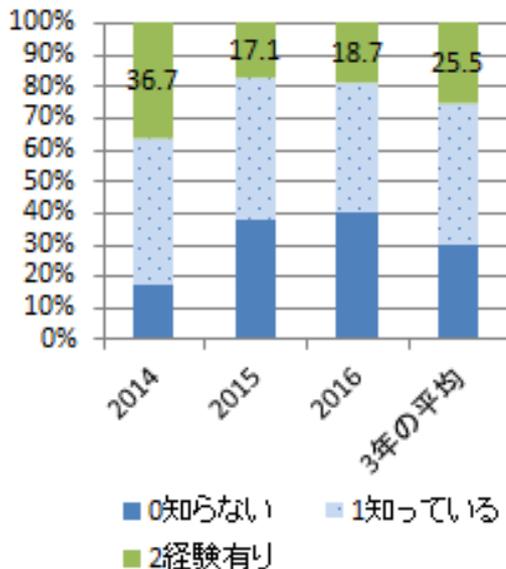
方法1-2) : 障害種別ごとの配慮事項について、「0知らない」「1知っている」「2経験したことがある」の3項目について、今回は知的障害の項目について大学生と初任者の3年間の比較をした。【図4,5,6,7,8,9,10】

【図4】 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)  
「ふりかえりシート」調査で2014~2016の3年間いずれも上位の項目

知23:「瞬時に具体的にほめているか」

大学生(3年間1位)  
【2014年度300人・2015年度246人・2016年度137人】

初任者(2014:1位・2015,2016:2位)  
【2014年度184人・2015年度196人・2016年度237人】



**【図5】 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)**  
 「ふりかえりシート」調査で2014～2016の3年間いずれも上位の項目

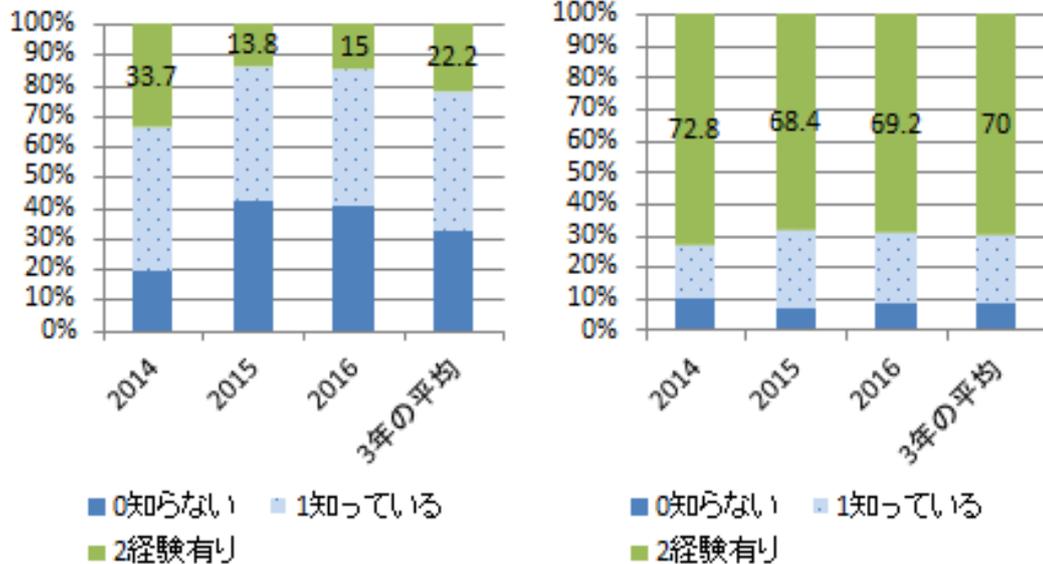
**知6:「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)」**

大学生

(2014年度300人・2015年度246人  
 ・2016年度187人)

初任者(2014:2位・2015,2016:1位)

(2014年度184人・2015年度196人・2016年度  
 237人)



**【図6】 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)**  
 「ふりかえりシート」調査で2014～2016の3年間いずれも上位の項目

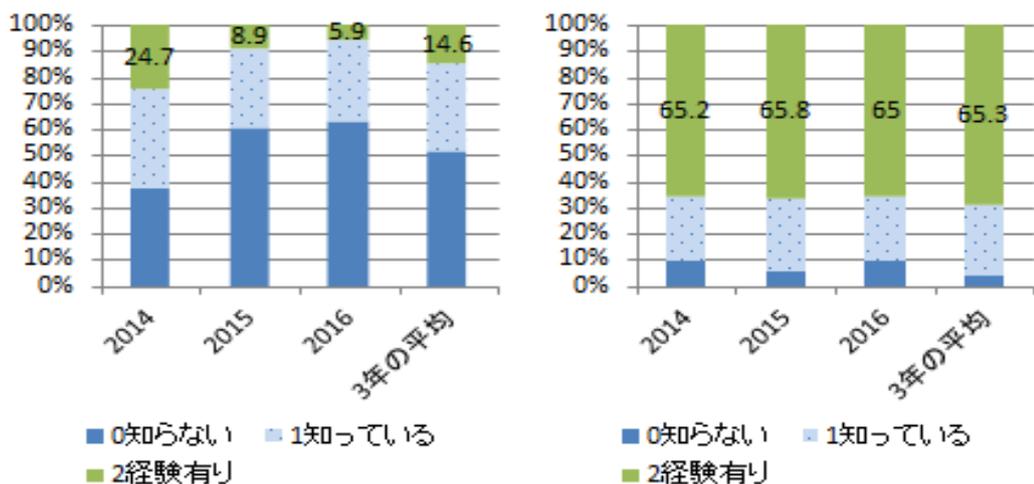
**知7:「ITで共有しているか」**

大学生

(2014年度300人・2015年度246人  
 ・2016年度187人)

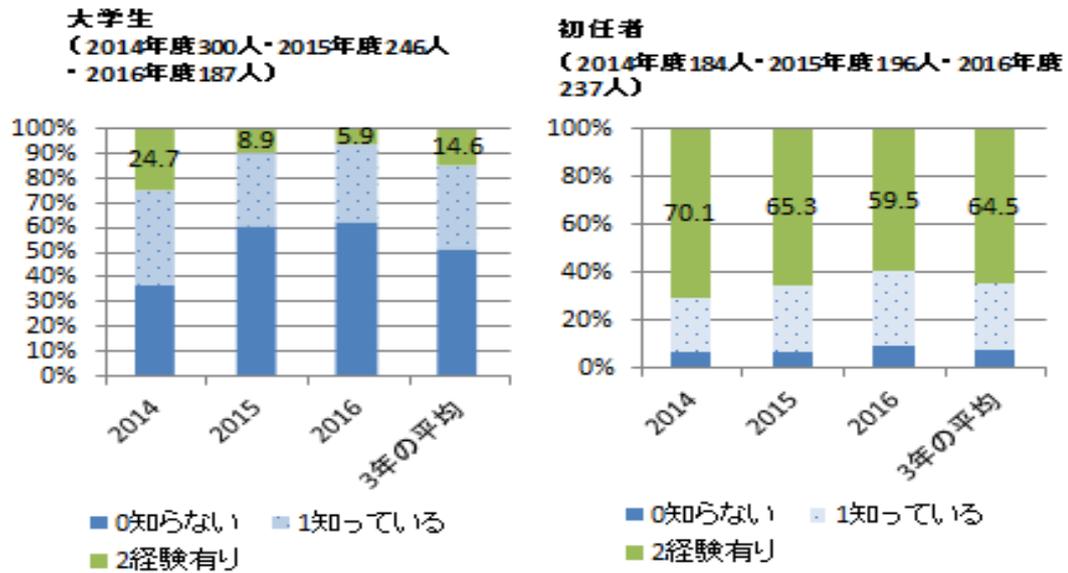
初任者

(2014年度184人・2015年度196人・2016年度  
 237人)



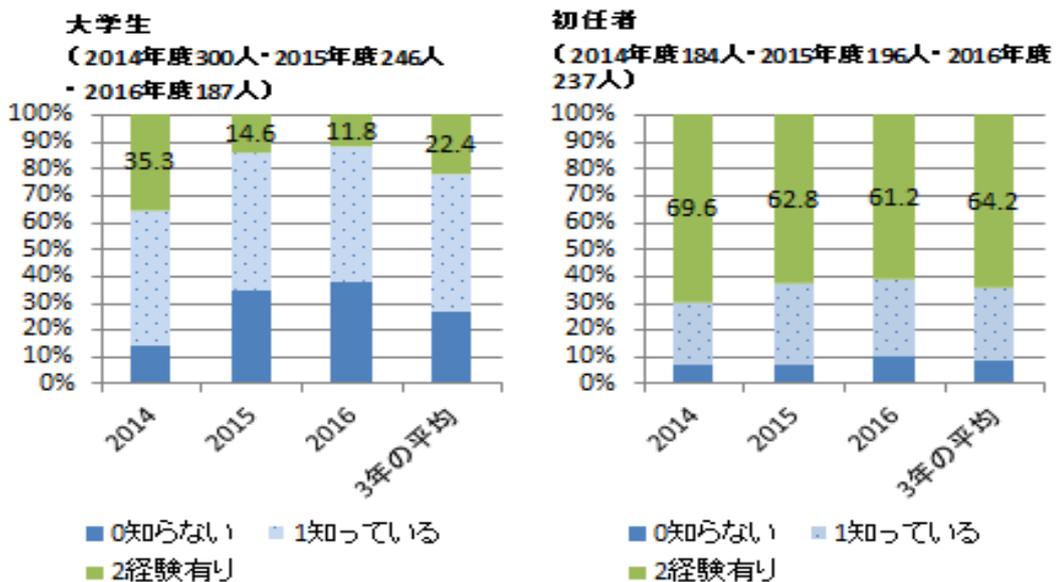
**[図7] 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)**  
「ふりかえりシート」調査で2014～2016の3年間いずれも上位の項目

**知25:「成果の確認をして、褒めているか」**

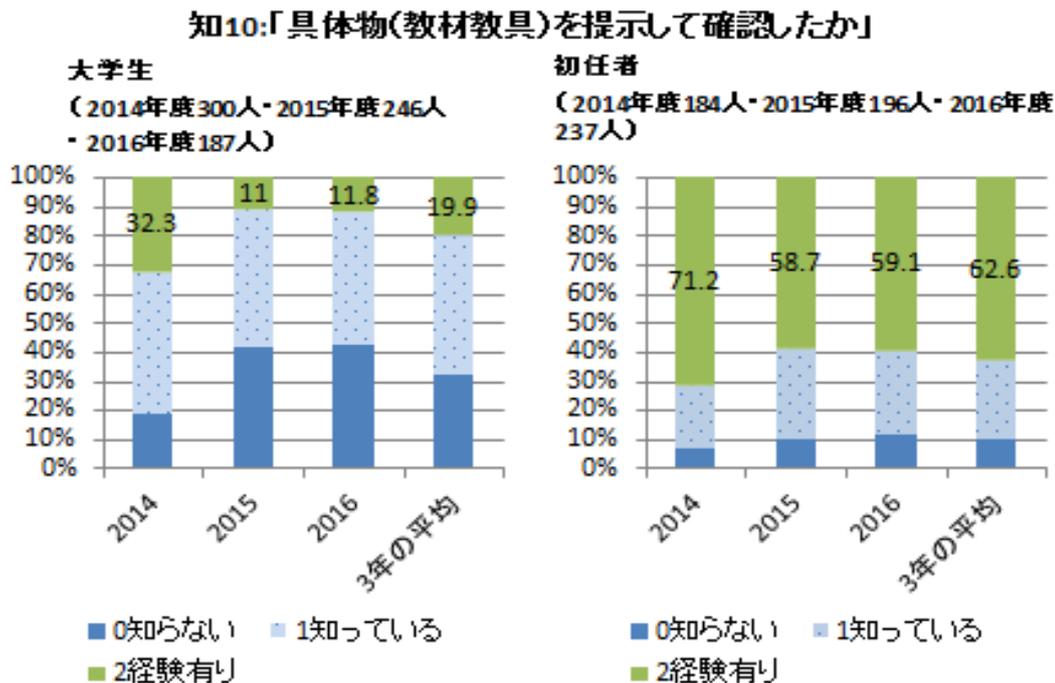


**[図8] 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)**  
「ふりかえりシート」調査で2014～2016の3年間いずれも上位の項目

**知11:「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」**



**[図9] 活用(経験)している上位項目:知的障害(38項目中)**  
「ふりかえりシート」調査で2014～2016の3年間いずれも上位の項目



上記の結果を、表にまとめてみると、[表2]の通りである。

[表2]  
「2経験有り」の初任者3年間の平均が、60%以上の項目  
(数字はふりかえりシート知的障害の配慮項目番号)

順位	項目番号	内容	難易度	初任者 (%)	大学生 (%)
1	知23	瞬時に具体的に口まわしているか	☆	70.0	25.5
2	知6	挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか (終わりの挨拶も)	☆	67.9	22.2
3	知7	ITで共有しているか	☆☆☆	65.3	14.6
4	知25	成果の確認をして、褒めているか	☆	64.6	22.1
5	知11	流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか	☆	64.2	22.4
6	知10	具体物(教材教具)を提示して確認したか	☆	62.6	19.9
7	知12	ゆっくり明確に発音しているか	☆	62.3	22.5
次点	知30	何をどこまでするかを明確に伝えているか	☆	56.2	22.8

- \* 難易度については、 ☆ : 知識があれば、経験が無くてもすぐに取り組める項目  
 ☆☆ : 知識に加え、子どもに応じて対応や程度を変える必要のある項目  
 ☆☆☆ : 知識経験に基づく常同行動への対応(自立活動)や子どもに合わせた専門的指導を必要とする項目(マカトン法・行動療法・動作法等)  
 \* 難易度(☆・☆☆・☆☆☆)については、特別支援教育経験者である本研究者3名で協議し評価した。

## 方法1-2)の結果：大学生と初任者との比較「知的障害の項目について」

回答の「2経験有り」の項目で、初任者について3年間の平均が、60%以上の7項目について、大学生との比較を試みた結果、大学生で最も多いのは、25.5%の知的障害23「即時に具体的にほめているか」であるが、実際に経験する機会は少ないという結果になった。（[表2]参照）

1～7の項目について初任者は、学校で、6割から7割の初任者が日々経験している項目であることが分かる。

- また、前回（2015年度の調査のまとめ）で述べたように、
- 知的障害6）「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか（終わりの挨拶も）」
- 知的障害10）「具体物（教材教具）を提示して確認したか」
- 知的障害11）「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」
- 知的障害12）「ゆっくり明瞭に発音しているか」
- 知的障害23）「即時に具体的にほめているか」
- 知的障害25）「成果の確認をして、褒めているか」

これらの項目は、支援学校では、特に教員に意識されている項目といえる。また難易度から見るといずれも知識があれば経験が無くてもすぐに取り組める項目であった。

今回、3年間の平均で見ると、知的障害7）「T.T.（ティームティーチング）で共有しているか」が初任者では、第3位になっているが、特別支援学校に配属されて初めて経験する初任者も多く、経験はしているが、対応方法が分からない場合もあり、学校訪問などで、質問が多くあった。場面や子どもの状態に合わせて、サブティーチャーとしての動きが変わるため、難易度は☆☆☆になり、具体的には経験を積むことが必要な配慮事項である。

また、T.T.（ティームティーチング）を組む教員との人間関係やコミュニケーション力も求められる内容となるが、梅花女子大学の心理学科の学生にとっては、心理学関係の講義等で習得した知識や経験が活用できれば協力してT.T.（ティームティーチング）ができると思われる。

梅花女子大学における特別支援教育演習受講（特別支援教育免許状取得を目的とする）の学生への複数回の「ふりかえりシート」調査による個人の変化をグラフにして検討（Aさん・Bさん）した。それぞれ3回生、4回生の2年間、計5回「ふりかえりシート」のチェックを行った。第5回目（9/21）は、特別支援学校への教育実習を経験した後のチェックである。（[図11][図12][図13]参照）

## 方法2について

### 方法2-1) Aさんの場合

Aさんは、肢体不自由対象の支援学校の中学部の重複クラス（医療的ケアの必要な子どももいる）に配属となった。

[図11]を見ると、知的障害の配慮事項の項目で、これまで1回でも「5常にしている」になった項目は、9項目になった。そのうち、教育実習後に「5常にしている」になった項目は5項目あった。

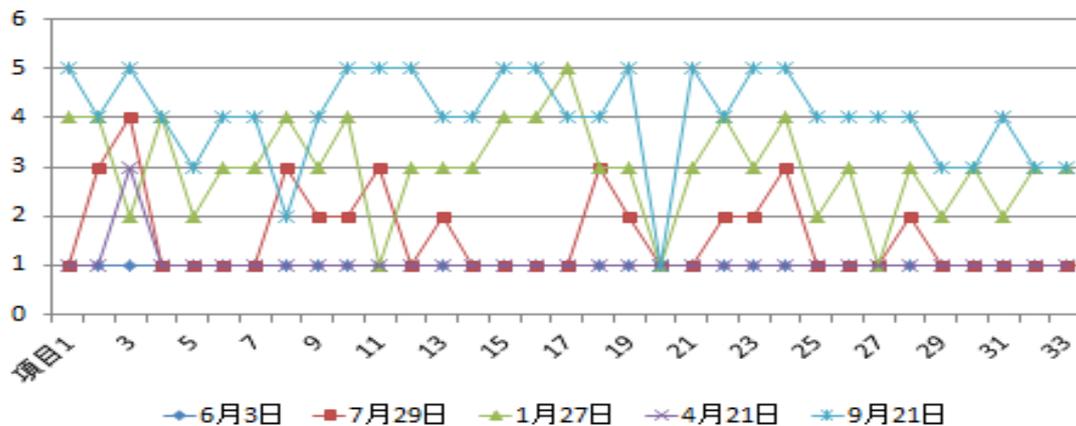
- 知的障害6）「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか（終わりの挨拶も）」
- 知的障害23）「即時に具体的にほめているか」
- 知的障害25）「成果の確認をして、褒めているか」
- 知的障害26）「次回の予告を具体的にしているか」
- 知的障害30）「何をどこまでするかを明確に伝えているか」

また、[図13]の病弱の配慮事項の項目を見ると、「5常にしている」になった項目は5項目（病弱6）以外）は、実習後の9/21のチェックで、「5常にしている」になっている。肢体不自由対象の支援学校であるが、医療的ケアが必要な重複障害児には、病弱の配慮事項も合わせて必要になることを経験できたと言える。

- 病弱1）「学習許可や室温、湿度、教材等の消毒済みの確認をしているか」
- 病弱2）「学習場所、スペースの消毒や安全確認ができているか」
- 病弱3）「個々の子どもの教科書等での単元等の確認をしているか」
- 病弱6）「欠席理由を確実に把握しているか」
- 病弱15）「体調の急変・医療器械のトラブルに対応できる用意があるか」

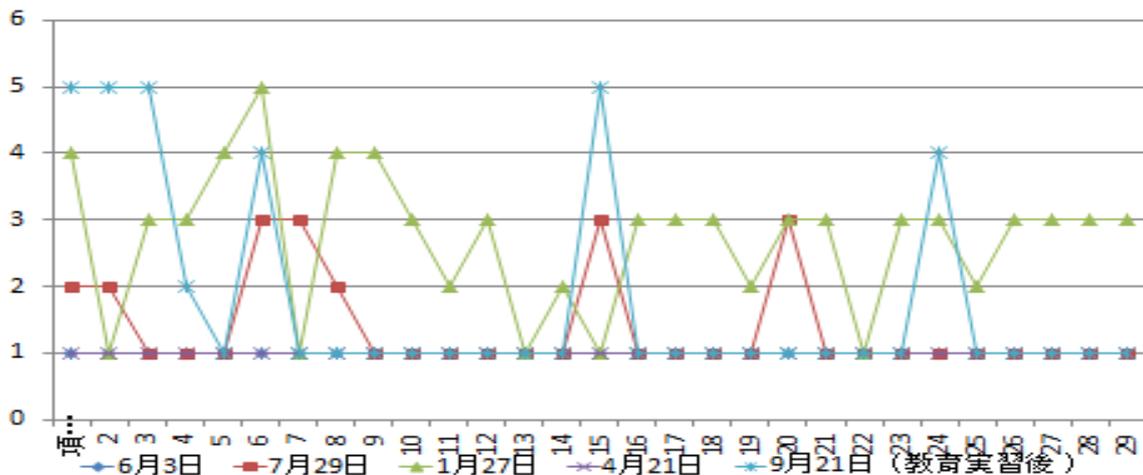
[図12] Aさん(6/3・7/29・1/27・4/21・9/21)  
 (1していない2気がつかばする3時々する4できるだけしている5常にしている)

肢体不自由(5になった項目:12項目)



[図13] Aさん(6/3・7/29・1/27・4/21・9/21)  
 (1していない2気がつかばする3時々する4できるだけしている5常にしている)

病弱(教育実習後 5になった項目:4項目)



方法2-2) Bさんの場合

Bさんは、知肢併置の支援学校に教育実習に行き、高等部の生活課程のクラスに配属となった。

これまで、「0知らない」「1していない」がほとんどであったが、9/21(教育実習後)のチェックでは、「4できるだけしている」になった項目が4項目(11)・(16)・(30)・(31)であった。このうち、知的障害11)と知的障害30)は、方法1「3年間の大学生と初任者との比較」で、上位に上がっていた項目である。

知的障害11)「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」

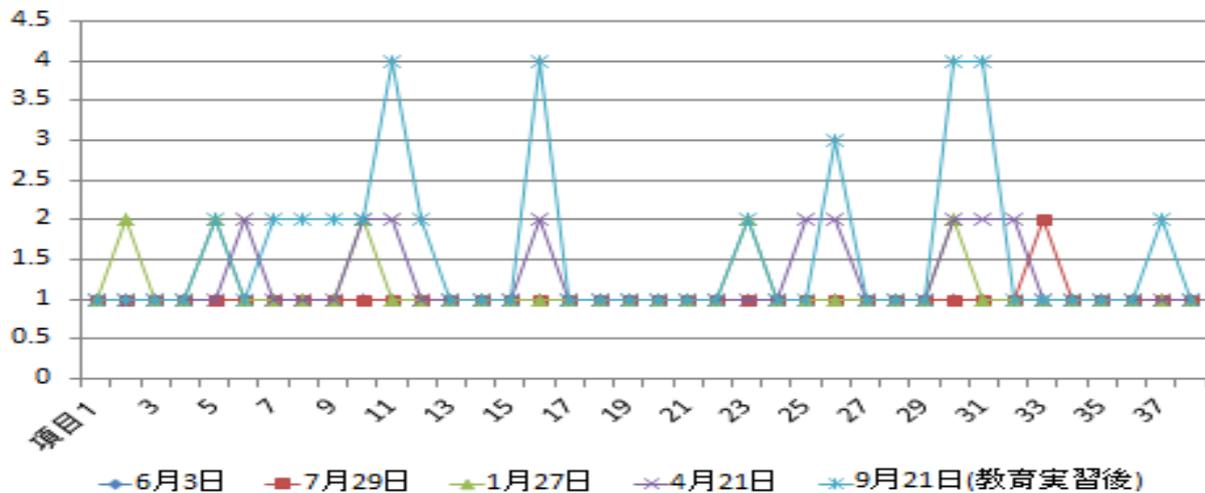
知的障害16)「どこを書き写すかを明示しているか」

知的障害30)「何をどこまでするかを明確に伝えているか」

知的障害31)「実物や具体物、シンプルな図など課題や終わり方にわかりやすい工夫があったか」

[図14] Bさん(6/3・7/29・1/27・4/21・9/21)  
 (1していない2気がつけばする3時々する4できるだけしている5常にしている)

知的障害(教育実習後 4になった項目:4項目)



方法2の結果

Aさん、Bさんとも実際に教育実習でこの「ふりかえりシート」の内容を身を持って体験したわけであるが、これまで何度も「ふりかえりシート」のチェックをしてきたことで、配慮事項についてはある程度知識として頭に入っていると思われる。そのため、Aさんのように肢体不自由児ではあるが、医療的ケアを必要としているため、病弱の配慮事項についても当てはまるものが多くあり、その必要性をすぐ理解でき、実行に移せたと考えられる。支援学校見学やボランティアで関わった経験について、繰り返し「ふりかえりシート」のチェックをすることで確認し知識として定着が図れたと考えられる。

方法3の結果：知的障害教育における指導法の講義の中で、「ふりかえりシート」を活用し、配慮事項の具体的な指導方法とその理由について学生にグループワークさせた。

事前に各自で考えて用紙に記入してきたものを持ち寄って、学生にグループワークさせ、班ごとに発表させた。また、その結果を一覧表にまとめて今後の指導の参考として配布した。(今回は、大阪大谷大学「病弱者の教育」において行った「ふりかえりシート」グループワークの3年間のまとめを載せている。(記入用紙は、[表3]、結果は、[表5]参照)

1人で考えてもなかなか指導方法が浮かばないが、グループワークすることによって、友だちの書いた方法をヒントに新たな方法をディスカッションしているグループもあり、多角的な視点から様々な病気や子どもの状態を想像し、それに合う指導方法を模索していた。

指導方法を多く知っておくことは必要であり、グループディスカッションの時間を多くとってほしいという要望も出て、活発なグループワークとなった。

3年重ねることにより、先輩の考えた指導方法に追加する形で、まとめた一覧表は、これから支援学校への教育実習やボランティア活動に役立つものとなり、自信を持って実習に取り組めると思われる。



ここでは、表5の中から、初任者が上位に選んだ7項目と次点の1項目の合計8項目について、大学生のグループワークの結果を表にまとめてみた。

[表4]

キーワード	番号	評価の観点	3 知的障害 (数字は配慮事項の番号)	具体的な方法	理由
あいさつ	4	授業開始の挨拶はできているか	6) 挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)	6) 姿勢を正すように声をかける ・時間帯によって挨拶のパターンを決める	6) 授業の始めと終わりを意識させる ・今はこの時間だからこの挨拶という規則性を教える
出欠・体調確認	5	出欠確認・体調の自己管理を指導しているか	7) ITで共有しているか	7) 授業前に情報共有しておく	7) 前に行うことで、授業内で配慮できる・補助し合える
前回のふりかえり	7	前の授業のふりかえりを行っているか	10) 具体物(教材教具)を提示して確認したか	10) ノートを見直す必要性を指導する・前回と同じもの(絵・カード)を使って流れに沿って進め思い出させる ・日常生活に関連づける	10) 復習を習慣づける・前回の理解度を確認し、本時とのギャップを少なくする ・生活と関連づけて自分の生活と関わっていることを理解する
本時の説明	8	本時の課題を確認し、意欲を高めているか	11) 流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか	11) 全体の流れを紙や黒板に書いて最初に示す・変更がある場合はすぐに伝える	11) スケジュールが分かっていないと不安な子どもがいる ・変更によるパニックを少なくする
学習内容の説明	9	説明の言葉は、聴き取りやすい、適切な言葉を遣っているか	12) ゆっくり明瞭に発音しているか	12) 口を大きく開けて滑舌よく、できるだけゆっくり話す	12) 聞き取りやすくする・自分の考えを子どもに分かりやすく伝える
発問と評価	12	子どもの答えを肯定的に評価し、全体に返しているか	23) 即時に具体的にほめているか	23) 絵カード、シール等を使ってほめる・ちょっとした事でもほめる	23) ほめられていることが分かりやすいように・それが良いことだと分かり、さらに子どもの意欲を高める
本時のふりかえり	13	まとめの内容は、課題や本時の目標と一致しているか	25) 成果の確認をしてほめているか	25) プリントの丸付け等を通して、できたことを具体的にほめる	25) 達成感を得て、次回のやる気を高める
(参考) 次点の項目					
学習内容・学習量	16	個々の学習量は、適切であったか	30) 何をどこまでするかを明確に伝えているか	30) 口頭の指示だけでなく、実物や絵や図を見せて説明する	30) 見てわかるように・始まりと終わりをはっきりさせる

[表5] 「ふりかえりシート」を活用した3知的障害の配慮事項の具体的指導方法とその理由のグループワークのまとめ

[改訂版] 授業改善にむけてのふりかえりシート (教員版) 3知的障害 グループワークまとめ (H28.)							
項目	キーワード	配慮の理由	3知的障がい	具体的方法	理由	障がい者側の困り・困り感	
1	環境	1 授業をする環境が整っているか	1) 教材教具の準備とその位置、安全確認ができているか 2) 体側に合った机、いすの高さか 3) 産廃の配置は適切か	1) あらかじめがけに注意して音のないものを準備・不必要な掲示はしない 2) 子どもの体格に合わせる 3) 黒板が見えるか確認	1) 子どもががけをしてしまうかもしれないから、勉強が快適にできるように 2) 辛い体制では集中できない 3) 黒板の文字が見えにくいと集中できない	1) 不安感や緊張はないか 2) 机の高さや椅子の高さが合っているか	
	教材	2 必要な教材がそろっているか	4) 安全で操作の見やすい教材か	4) 障害や発達段階に応じた教材を準備	4) 障害や発達段階はみんな違うから	3) 教材の字が小さく見えないか	
	グループワークとの連携	3 T T (チームティーミング)との連携はできているか	5) 授業の流れとT Tの役割分担の確認をしているか	5) 事前に分担しておく	5) 先生同士がバラバラの指導になると、子どもが混乱する	4) 子どもへの指示がわかりにくく役割分担しているか	
2	あいさつ	4 授業開始の挨拶はできているか	6) 挨拶のボタンを決め、モデルを示しているか (繰り返しの挨拶も)	6) 姿勢を直すように声をかける - 時間帯によって挨拶のボタンを決める	6) 授業の始めと終わりを意識させる - 今はこの時間だからこの挨拶という規則性を教える	5) 授業の始めと終わりを意識させることができないか (繰り返しの挨拶も)	
	出欠・体調確認	5 出欠確認、体調の自己管理が指しているか	7) T Tで共有しているか 8) 自己申告できる場面があるか	7) 授業前に情報共有しておく 8) 名前を呼ばれたら、自分なりの方法で返すように声をかける - 健康状態を朝や給食中に質問する	7) 前に行くことで、授業内で配慮できる・補助し合える 8) 自分なりの方法なら無理なくできる - 言いやすい環境をつくる	6) 体調が悪いときや体調が悪いときを知らせることができないか	
	子どもの授業準備 (机入)の確認	6 子どもの授業準備が出来ているかを確認しているか	9) 指示に沿った授業準備ができていますか	9) 準備が終わると、手を膝に置かせて静かに待たせる - 必要なもののサンプルを先生の机にも準備しておく	9) できていない児童とそうでない児童がはっきりする - 周りに情報を得る (サンプル) ことで、安心して準備できる	7) 自分の机の整理ができていないか、グループワークの準備ができていないか	
3	前回のふりかえり	7 前回の授業のふりかえりをしているか	10) 具体的 (教材教具) を提示して確認したか	10) ノートを見返す必要性を指導する - 前回と同じもの (絵・カード) を使って流れに沿って進め思い出させる 11) 全体の流れを紙や黒板に書いて最初に表示・変更がある場合はすぐに伝える	10) 復習を習慣づける - 前回の理解度を確認し、本時とのギャップを少なくする - 生活と関連づけて自分の生活と関わっていることを理解する	8) 前回の授業準備ができていないか、質問の答えができていないか	
	本時の説明	8 本時の課題を確認し意欲を高めているか	11) 流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか	11) 全体の流れを紙や黒板に書いて最初に表示・変更がある場合はすぐに伝える	11) スケジュールが分かっていないと不安な子どもがいる・変更によるバニクを少なくする	9) 本時の課題と前回の課題を比較することができないか	
4	学習内容の説明	9 説明の言葉は、聞き取りやすい、適切な言葉を使っているか - 説明と、質問の時間を分けて教えているか (視覚物の説明)	12) ゆっくり丁寧に発音しているか 13) 音に敏感な子どもへの配慮はあるか 14) マカドニシ、ジェスチャー等を取り入れてみるか 15) 見る・読む・書くの活動を分けていくか	12) 口を大きく開けて清音よくできるだけゆっくり話す 13) その子どもの苦手な音を把握しておく・耳栓を活用・パーテーションを利用 - 自分で対処できる方法を教える 14) 重要なことにジェスチャー等を使う - 表情を変えて分かりやすくオーバーに表現する 15) 同時進行でしないで、1つずつ指導する - 時間に区切りをつけて1つ1つの行動に時間をとる	12) 聞き取りやすくなる・自分の考えを子どもに分かりやすく伝える 13) バニクにならないように・個人の空間を作る - 自己解決力を身につける 14) 言葉が苦手な子どもに言葉以外の伝え方を教える - 視覚だけでもわかるようにする 15) 一度にたくさんすると分らなくなる - 1つ1つ確実に自分の力で進めさせる	10) 聞き取りが難しいか 11) 言葉が苦手な子どもに言葉以外の伝え方を教えることができないか 12) 重要なことにジェスチャー等を使うことができないか 13) 表情を変えて分かりやすくオーバーに表現することができないか 14) 同時にたくさんのことを教えることができないか	
	板書・視覚物	10 板書、視覚物の文字は、どの程度でも読めるか - 板書、視覚物の配置は、読者のために整っているか (視覚物の説明)	16) どこを書き出すかを指示しているか 17) フォント・サイズ・色等の扱いに注意しているか 18) 黒板の分割活用をしているか 19) 黒板の追加や文字の大きさを等に配慮しているか	16) 板書は文字数が多くならないように、大きな字でどこを写せばいいか分かりやすくする - 重要なところは色を塗ったり、囲ったりする 17) 色を決めて必要最小限に用いる・あらかじめ本数を教えておく - 中が見えない入れ物に保管 18) 板書をする部分と要点を別に書く - 線を引き、必要なものは書かない 19) 字を大きく丁寧に簡潔に書く - タイトルを大きく、他は一定の大きさで書く	16) 文字が多いと頭の中で整理するのが難しい - 見分けが付きやすい 17) 赤や青は黒板では見えにくい・間違えて食べたりしないように - 子ども興味を引かないように 18) 見て分かるように - 見やすく、重要なことだけにする 19) 細かい字が多いと分かりにくい - どこが重要か理解できる	11) 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100) 101) 102) 103) 104) 105) 106) 107) 108) 109) 110) 111) 112) 113) 114) 115) 116) 117) 118) 119) 120) 121) 122) 123) 124) 125) 126) 127) 128) 129) 130) 131) 132) 133) 134) 135) 136) 137) 138) 139) 140) 141) 142) 143) 144) 145) 146) 147) 148) 149) 150) 151) 152) 153) 154) 155) 156) 157) 158) 159) 160) 161) 162) 163) 164) 165) 166) 167) 168) 169) 170) 171) 172) 173) 174) 175) 176) 177) 178) 179) 180) 181) 182) 183) 184) 185) 186) 187) 188) 189) 190) 191) 192) 193) 194) 195) 196) 197) 198) 199) 200) 201) 202) 203) 204) 205) 206) 207) 208) 209) 210) 211) 212) 213) 214) 215) 216) 217) 218) 219) 220) 221) 222) 223) 224) 225) 226) 227) 228) 229) 230) 231) 232) 233) 234) 235) 236) 237) 238) 239) 240) 241) 242) 243) 244) 245) 246) 247) 248) 249) 250) 251) 252) 253) 254) 255) 256) 257) 258) 259) 260) 261) 262) 263) 264) 265) 266) 267) 268) 269) 270) 271) 272) 273) 274) 275) 276) 277) 278) 279) 280) 281) 282) 283) 284) 285) 286) 287) 288) 289) 290) 291) 292) 293) 294) 295) 296) 297) 298) 299) 300) 301) 302) 303) 304) 305) 306) 307) 308) 309) 310) 311) 312) 313) 314) 315) 316) 317) 318) 319) 320) 321) 322) 323) 324) 325) 326) 327) 328) 329) 330) 331) 332) 333) 334) 335) 336) 337) 338) 339) 340) 341) 342) 343) 344) 345) 346) 347) 348) 349) 350) 351) 352) 353) 354) 355) 356) 357) 358) 359) 360) 361) 362) 363) 364) 365) 366) 367) 368) 369) 370) 371) 372) 373) 374) 375) 376) 377) 378) 379) 380) 381) 382) 383) 384) 385) 386) 387) 388) 389) 390) 391) 392) 393) 394) 395) 396) 397) 398) 399) 400) 401) 402) 403) 404) 405) 406) 407) 408) 409) 410) 411) 412) 413) 414) 415) 416) 417) 418) 419) 420) 421) 422) 423) 424) 425) 426) 427) 428) 429) 430) 431) 432) 433) 434) 435) 436) 437) 438) 439) 440) 441) 442) 443) 444) 445) 446) 447) 448) 449) 450) 451) 452) 453) 454) 455) 456) 457) 458) 459) 460) 461) 462) 463) 464) 465) 466) 467) 468) 469) 470) 471) 472) 473) 474) 475) 476) 477) 478) 479) 480) 481) 482) 483) 484) 485) 486) 487) 488) 489) 490) 491) 492) 493) 494) 495) 496) 497) 498) 499) 500) 501) 502) 503) 504) 505) 506) 507) 508) 509) 510) 511) 512) 513) 514) 515) 516) 517) 518) 519) 520) 521) 522) 523) 524) 525) 526) 527) 528) 529) 530) 531) 532) 533) 534) 535) 536) 537) 538) 539) 540) 541) 542) 543) 544) 545) 546) 547) 548) 549) 550) 551) 552) 553) 554) 555) 556) 557) 558) 559) 560) 561) 562) 563) 564) 565) 566) 567) 568) 569) 570) 571) 572) 573) 574) 575) 576) 577) 578) 579) 580) 581) 582) 583) 584) 585) 586) 587) 588) 589) 590) 591) 592) 593) 594) 595) 596) 597) 598) 599) 600) 601) 602) 603) 604) 605) 606) 607) 608) 609) 610) 611) 612) 613) 614) 615) 616) 617) 618) 619) 620) 621) 622) 623) 624) 625) 626) 627) 628) 629) 630) 631) 632) 633) 634) 635) 636) 637) 638) 639) 640) 641) 642) 643) 644) 645) 646) 647) 648) 649) 650) 651) 652) 653) 654) 655) 656) 657) 658) 659) 660) 661) 662) 663) 664) 665) 666) 667) 668) 669) 670) 671) 672) 673) 674) 675) 676) 677) 678) 679) 680) 681) 682) 683) 684) 685) 686) 687) 688) 689) 690) 691) 692) 693) 694) 695) 696) 697) 698) 699) 700) 701) 702) 703) 704) 705) 706) 707) 708) 709) 710) 711) 712) 713) 714) 715) 716) 717) 718) 719) 720) 721) 722) 723) 724) 725) 726) 727) 728) 729) 730) 731) 732) 733) 734) 735) 736) 737) 738) 739) 740) 741) 742) 743) 744) 745) 746) 747) 748) 749) 750) 751) 752) 753) 754) 755) 756) 757) 758) 759) 760) 761) 762) 763) 764) 765) 766) 767) 768) 769) 770) 771) 772) 773) 774) 775) 776) 777) 778) 779) 780) 781) 782) 783) 784) 785) 786) 787) 788) 789) 790) 791) 792) 793) 794) 795) 796) 797) 798) 799) 800) 801) 802) 803) 804) 805) 806) 807) 808) 809) 810) 811) 812) 813) 814) 815) 816) 817) 818) 819) 820) 821) 822) 823) 824) 825) 826) 827) 828) 829) 830) 831) 832) 833) 834) 835) 836) 837) 838) 839) 840) 841) 842) 843) 844) 845) 846) 847) 848) 849) 850) 851) 852) 853) 854) 855) 856) 857) 858) 859) 860) 861) 862) 863) 864) 865) 866) 867) 868) 869) 870) 871) 872) 873) 874) 875) 876) 877) 878) 879) 880) 881) 882) 883) 884) 885) 886) 887) 888) 889) 890) 891) 892) 893) 894) 895) 896) 897) 898) 899) 900) 901) 902) 903) 904) 905) 906) 907) 908) 909) 910) 911) 912) 913) 914) 915) 916) 917) 918) 919) 920) 921) 922) 923) 924) 925) 926) 927) 928) 929) 930) 931) 932) 933) 934) 935) 936) 937) 938) 939) 940) 941) 942) 943) 944) 945) 946) 947) 948) 949) 950) 951) 952) 953) 954) 955) 956) 957) 958) 959) 960) 961) 962) 963) 964) 965) 966) 967) 968) 969) 970) 971) 972) 973) 974) 975) 976) 977) 978) 979) 980) 981) 982) 983) 984) 985) 986) 987) 988) 989) 990) 991) 992) 993) 994) 995) 996) 997) 998) 999) 1000)	

## 考察

### 方法1について

初任者の「2 経験有り」の上位にある項目は、2014年度の調査結果は、  
 1位(73%)は知的障害6)「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)」  
 2位(71%)は知的障害10)「具体物(教材教具)を提示して確認したか」  
 3位(70%)は知的障害25)「成果の確認をして、褒めているか」

で、「1知っている」も合わせてみると、

- 1位：知的障害6) (90%)
- 2位：知的障害10) (92%)
- 3位：知的障害25) (94%)

と、いずれも90%を超えている。

3年間の調査の平均を見ても、ほぼ同様の結果が見られた。

これらの項目は、支援学校では、特に教員に意識されている項目といえる。また難易度から見るといずれも知識があれば経験が無くてもすぐに取り組める項目であった。

一方、大学生の場合は、2014年度の調査結果では、

- 1位(%)：知的障害23)「即時に具体的にほめているか」
- 2位(%)：知的障害11)「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」
- 3位(%)：知的障害25)「成果の確認をして、褒めているか」

となっていて、1位と3位がほめることであり、うまくできたときは即座にほめるが実践されていることがわかる。

また、2位(%)の知的障害11)「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」は、近年発達障害についての知識を取り入れ、対応していることが多く、ボランティアでも発達障害の子どもとかかわることが多いことが影響しているものと思われる。

2014年度の調査結果、初任者の「2 経験有り」、及び「1知っている」の上位3項目について、初任者と大学生では、7%~27.7%の差が出ている。

大学生では、「1知っている」の方が上回っており、初任者は「2 経験有り」が上回っていた。実際、学校で児童生徒にかかわっているかの差がはっきり出ている。

これは、3年間の比較においても同様の傾向が見られた。([図4]~[図10]参照)

### 方法2について

個人別の5回のグラフ(Aさん・Bさん)の変化を見ても、教育実習後、「5常にしている」や「4できるだけしている」になっている項目が増えていることから、支援学校では必要かつ求められる配慮事項であることがわかる。

また、障害種別の配慮事項だけではなく、重複障害の子どもであれば、その子どもの状態に応じて、他の障害種別の配慮事項が必要かつ有効である場合もある。(Aさんの場合、医療的ケアを必要としている子どもがいたため、病弱の配慮事項が役に立った。)

### 方法3について

「ふりかえりシート」を使って、配慮事項の具体的な指導について、グループワークなどで深めた結果を一覧表にして学生に配布している。学生たちは、経験のない指導方法を想像をめぐらせて考え、その理由も合わせて表に記入していく。

障害のある子どもは1人1人課題が異なり、それに伴って指導方法にも工夫がいる。自分で考えた指導方法についてグループの友だちに説明することは、学生の発表力をつけることにもなり、また、同じ項目についてお互いに違った方法や理由を出し合うことで、いろいろな方法を知ることができる。

また、例えば知的障害7)「T.T.(チームティーチング)で共有しているか」について、実際の支援学校では、時間ごとにT.T.のメンバーが入れ替わるので、なかなか前もって情報を共有することが難しい。しかし、ある支援学校では校内ランを活用して、その時間のサブティーチャーの役割を記入した指導略案を共有し、授業が終わった後も、その時担当した子どもの様子を書き込む方式を取って情報共有を図っている。どうすればできるだけ教員の負担を少なくして情報共有できるかの工夫についてもより深く学んでいた。これは、今後、支援学校の教員となった時や、障害のある子どもたちに対応する時に、多くの選択肢の中からより良い方法を選べることに繋がると考えられる。

## まとめ

以上の結果から、大学における特別支援教育の授業内容としては、初任者にとって、2経験有りが、3年間上位にある7項目について、大学における特別支援学校教員養成カリキュラムの具体的方法を検討し、取り組んだ結果、方法2で示したように、繰り返し「ふりかえりシート」のチェックをすることで、各障害種別の配慮事項を確認し、また記憶していることが、実際のボランティア活動や、教育実習の場面で生かされていることが明らかとなった。

指導する際に必要不可欠な内容や項目はどの授業においても、また校種を超えて共通する内容であることから、それに絞って理解を深め、実践力を養うのが効果的であるといえる。まず知識があれば即実践できる内容について授業内容に取り入れることが有効である。

また、これらの項目は、特別支援学校や学級に限らず、通常の学校でも必要な内容で、かつ有効な項目である。具体的に、7項目についての取り組みを挙げると、次のような内容である。

### 1 知的障害6) 「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)」

これは、多くの知的障害の特別支援学校が実践しており、小学部、中学部、高等部と学年が上がるにつれて、そのパターンは変化し、高等部では、職業自立も視野に入れ、「礼」の挨拶のあと「お願いします」や「ありがとうございました」と言ってからお辞儀をする方法で行っている。この知識を知っておくことで、特別支援学校に勤め教壇に立ったその日から児童生徒を指導できることになる。

そこで、大学の講義において、授業の最初と最後の挨拶の号令を、学生が順に行い、子どものどこに注目して号令をかければいいのかを考えながら実践している。

これは、学校のみならず、就職試験や、社会人となった時の挨拶にも通じるものであり、日々の授業のたびに練習することは有効である。

### 2 知的障害7) 「T. T. (ティームティーチング) で共有しているか」

これは、初任者もこれまで自分が受けてきた授業の中で経験したことや意識したことが無い「T. T. (ティームティーチング)」なので、感覚がつかめなまま授業に入っている場合が多い。(川戸が、)支援学校を訪問して、初任者の授業を見た後や、研修会で質問が出るのは、T. T. のやり方についてが多い。特に初任者は、サブに入る教員が先輩になるため、どのように子どもの指導等を依頼すればいいかわからず、結局自分でしてしまい、サブティーチャーを生かし切れずに授業がうまく進められなくて困っている。

### 3 知的障害10) 「具体物(教材教具)を提示して確認したか」

知的障害のある子どもは、言葉だけの説明では理解が難しいので、具体的に絵や写真、実物を見せることで理解につながれるが、これは、発達障害のある子どもも同じで、現在、地域の小・中学校で、「授業のユニバーサルデザイン」として視覚化が勧められていることとも一致する。

授業の中で、学生たちが発表する場面や、模擬授業の練習を行う際も、視覚支援を活用すること、その時、背景に不必要なものがないよう注意を払うことも合わせて指導している。

### 4 知的障害11) 「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」

その授業の流れを最初に説明しておくことで、子どもたちは見通しを持って授業に参加できる。

方法は、子どもの状況によって2通りあり、①1つずつの流れをカードに書いておき、1つずつ説明しながら黒板に貼り、その内容が終了したらその都度、カードを外していく方法、②1つずつの流れをカードに書いておき、1つずつ説明しながら黒板に貼り、全部のカードを貼ったまま、今している内容のカードの前に⇒やマークのマグネットをつけて示す方法である。

### 5 知的障害12) 「ゆっくり明瞭に発音しているか」

障害のある子どもに限らず、子どもが理解できるスピードで明瞭に発音することは基本である。

これは、大学でも発表する場面などで、誰に向かって話をしているかを日頃から意識するように心がけるだけでも練習になる。

### 6 知的障害23) 「即時に具体的にほめているか」

しばらく経ってから前のことをほめてもらっても理解できないため、すぐその場でほめることが望ましい。また具体的にどこが良かったのかを言ってからほめないと伝わらない。

## 7 知的障害25) 「成果の確認をして、褒めているか」

指示通りいっしょうけんめい取り組んでいることをほめるが、何ができるようになったのかを子どもと一緒に確認してからそのことをほめて達成感を味わわせ、一緒に喜ぶことも大事である。

次に、方法3の「ふりかえりシート」を使って、配慮事項の具体的な指導について、グループワークなどで深めた結果を一覧表にして学生に配布しているが、この表を活用することにより、特別支援教育指導法演習AB、こどもサポート演習ABなどにおいてや、実際に支援学校や障害者施設等での演習の時、またボランティアの経験に活かせるものとなっている。それが将来、特別支援学校での指導に役立つものとなる。

## 今後に向けて

「ふりかえりシート」を用いることで、以下の教育的効果が実証された。

- ① 現場でこれまで培われてきた特別支援教育に関する「ふりかえりシート」の配慮点等、特別支援教育における有用な情報を分析し、これから特別支援教育をめざす学生の知識や経験の獲得に寄与できる
- ② 「ふりかえりシート」の活用により、特別支援教育の経験がない、または少ない学生が障害のある子どもたちに接し、授業をする上で何に気をつけ、どんな配慮が必要となるのかという基礎的知識の理解と教育技術の促進を図ることができる
- ③ 大学での特別支援教育の授業に「ふりかえりシート」の内容を取り入れることにより、基礎的な知識や経験（教育実習等に取り組む姿勢や観点）を有する対人援助における有用な人材の育成に資することができる

今後のインクルーシブ教育システム構築に向けた合理的配慮の視点を高めるためにもさらなる活用をうながしていきたい。

## 謝辞

本研究は、2015年度プロジェクト研究助成（代表者：川戸明子）を受けて実施した研究成果の一部である。この研究を行うにあたり、全大阪府立支援学校の管理職始め教職員の皆様と大阪大谷大学、大阪教育大学の教員、学生の皆様、大阪府教育センター支援教育研究室には、多大なるご協力をいただきました。記して深く感謝いたします。

## 参考文献

- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」他 平成23年11月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「大阪の支援教育」平成24・25年度版 大阪府教育委員会 平成24・25年11月
- ・大阪の授業STANDARD 平成24年5月 大阪府教育センター
- ・2014年度 梅花女子大学心理こども学部紀要5「特別支援学校における『指導実践改善シート』～1作成までの経緯～」p43～p66
- ・2015年度 梅花女子大学心理こども学部紀要5「特別支援学校における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」p30 ～p42

[要旨]

2014年度紀要「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」及び、2015年度紀要「特別支援教育における指導の観点に基づく教員養成プログラムの作成に関する研究」において、「ふりかえりシート（教室版）」を活用して、特別支援教育で必要な配慮点について知ることを目的に調査を行い、2014年度の大阪府立支援学校の初任者との比較を行うことで、教育が行われている特別支援学校でより必要とされている基本的な配慮項目を特定した。

今年度（2016年度）は、2014～2016年度3年間の調査結果を分析し、初任者において経験の多い配慮事項について、その基本的な配慮事項の理解や実践を大学の授業の中で、どう取り入れることが有効であるかについて調査研究を行った結果をまとめた。

多様な特別支援教育の現場におけるニーズに合致した実践力を育成するために必要なプログラムを作成し、授業に活用し、その成果を検証した。

[キーワード]

- ・特別支援教育実践、授業における配慮点、教員養成

[英文要旨][Abstract]

In the 2014th and 2015th bulletin article, “The Study on the Development of the Program to Train Teachers for Special Needs Education from a Perspective of Instructional Methods”, we conducted the survey to examine the points to be considered in special needs education, utilizing “the evaluation sheet for the improvement of daily educational practice (classroom version)”. As a result, by comparing with the 2014th newly appointed teachers of the schools for special needs education in Osaka prefecture, we identified basic consideration point which is necessary in special needs education.

This study analyzed the data from 2014 to 2016 questionnaire survey, and found how to adopt effectively the knowledge and practice of the basic points of consideration to teacher training at university.

We developed the program necessary for training the practical skills matched with need in various fields of special needs education. Moreover, we utilized it in the lecture, and examined the effectiveness of it.

[附録] 以下のページに、次の表を載せる（計5ページ）

[表6][改訂版]「授業改善にむけてのふりかえりシート」（2014.4.1梅花女子大学）	(2ページ)
[表7]回答記入用紙（大学生調査用）	(1ページ)
[表8]回答記入用紙（初任者調査用）	(1ページ)
[表9]回答記入用紙（大学生 特別支援教育演習・サポート演習受講者用 5件法でチェック）	(1ページ)

[表6][改訂版]「授業改善にむけてのふりかえりシート」(2014.4.1梅花女子大学)

	キーワード	番号	評価の観点	1 視覚障がい	2 聴覚障がい	3 知的障がい
1	事前準備	環境	1 授業をする環境が整っているか	1) 視覚補助具の準備はできているか 2) 採光の調整、室温、座席の位置は適切か	1) 集団補聴器の準備と座席配置(馬蹄形等)はできているか 2) PC、大型テレビ等や掲示教材の準備はできているか 3) 板書指導案を準備しているか	1) 教材教具の準備とその位置、安全確認ができているか 2) 体格に合った机、いすの高さか 3) 座席の配置は適切か
		教材	2 必要な教材がそろっているか	3) 触察教材も活用しているか	4) 視覚教材も活用しているか 5) ビデオ等の音量が適切か確認しているか	4) 安全で操作のしやすい教材か
		ブライヤー(サブ)との連携	3 TT(チームティーチング)の分担確認はできているか	4) 学習活動場面に応じた役割分担を確認しているか	6) 学習活動場面に応じた役割分担を確認しているか	5) 授業の流れとITの役割分担の確認をしているか
2	授業開始	挨拶	4 授業開始の挨拶はできているか	5) あいさつをする顔や身体の向き、距離に対しての声量が適切であるかの確認がされているか(終わりの挨拶も)	7) 発声、手話を用いて全員そろって挨拶させているか(終わりの挨拶も)	6) 挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)
		出欠・体調確認	5 出欠確認・体調の自己管理を指導しているか	6) 友だちの出欠をお互いに確認できているか 7) 自己申告できる場面があるか	8) 友だちの出欠をお互いに確認できているか 9) 自己申告できる場面があるか	7) ITで共有しているか 8) 自己申告できる場面があるか
		子どもの授業準備(構え)の確認	6 子どもの授業準備が出来ているかを確認しているか	8) 指先が冷えていないか 9) 各自必要な視覚補助具が準備できているか	10) 補聴器スイッチや電池の確認等ができているか	9) 指示に沿った授業準備ができているか
3	導入	前回のふりかえり	7 前回の授業のふりかえりをしているか	10) 教科書や前回の教材を用いて確認したか	11) 前回の掲示教材やプリント、ノート等で確認したか	10) 具体物(教材教具)を提示して確認したか
		本時の説明	8 本時の課題を確認し意欲を高めているか	11) 単元全体の中での本時の課題を説明しているか	12) 単元目標と本時の関連を確認しているか 13) 何を学習するか声に出して確認させているか	11) 流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか
4	展開	学習内容の説明	9 説明の言葉は、聴き取りやすい、適切な言葉を選んでいるか ・説明と、板書の時間を分けて確保をしているか(掲示物の説明)	12) 指示語を使わず、具体的に相手に向かって話しているか 13) 「全体から部分へ」という説明方法の基本に留意しているか	14) 主語、目的語を明確に話しているか 15) 教員は口形を意識して正面から話しているか 16) 不適切な幼児ことばを使っていないか 17) 集団補聴器を活用しているか 18) 見る一読む一書くの活動を分けているか	12) ゆっくり明確に発音しているか 13) 音に敏感な子どもへの配慮はあるか 14) マカトン法、ジェスチャー等を取り入れているか 15) 見る一読む一書くの活動を分けているか
		板書・掲示物	10 板書、掲示物の文字は、どの座席からでも読めるか ・板書、掲示物の配置は、話の流れにそって整理されているか	14) 黒板では「白・黄」(「赤・青」×)のチョーク、ホワイトボードでは「黒・青」(「黄」×)の使用に留意しているか 15) 文字の大きさ、フォントに配慮しているか 16) 記号やマークをつけて整理しているか	19) 筆順は正しいか 20) 絵カード、文字カード等を活用しているか	16) どこを書き写すかを明示しているか 17) フォンティックカード等の扱いに注意しているか 18) 黒板の分割活用をしているか 19) 読み仮名の付加や文字の大きさ等に配慮しているか
		机間指導	11 子どもの状況に応じて適切に机間指導をしているか	21) 正しくノートが書けているか 18) 必要以上の負担がかかっていないかの確認をしているか	21) 注視時間が長すぎないか、内容を理解できているかの確認をしているか	20) 自発的な行動を促しているか 21) ロッキング等の常同行動への適切な対応があるか
		発問と評価	12 子どもの状況に応じた適切な発問がされているか ・子どもの答えを肯定的に評価し、全体に返しているか	19) 「次の人」「後ろの人」ではなく、名前を呼んで発問をしているか 20) 具体的な数字等に置き換えて、全体に返しているか	22) 発問内容を理解できているかの確認をしているか 23) 集団討論に全員が参加出来ているか	22) 選択肢から選ぶ、カードの提示等、答え方の指導をしているか 23) 即時に具体的にほめているか
5	結び	本時のふりかえり	13 まとめの内容は、課題や本時の目標と一致しているか	21) まとめから本時の目標が理解できる具体物や体験を取り入れているか	24) 何の学習をしたかを声に出して確認しているか	24) 課題とまとは一致しているか 25) 成果の確認をして、褒めているか
		次回予告と挨拶	14 次回の授業に言及しているか ・終わりの挨拶はできているか	22) 日付や曜日、準備物の確認が具体的にされているか	25) 板書、ノートで確認しているか	26) 次回の予告を具体的にしているか
6	授業の工夫	注目	15 子どもに正対しているか	23) 教員の気配を感じているかを確認しているか	26) 子どもたちは全員教師を見ているか確認しているか	27) 目があうのを待っているか 28) 注意を向けさせる手立てがあるか
		学習内容・学習量	16 学力差等に応じた学習内容の工夫があるか ・個々の子ども学習量は、適切であったか	24) 時間配分は十分か 25) どの子どもも学習に参加できているか	27) 個別の課題準備ができているか	29) 個別の課題準備ができているか 30) 何をどこまでするかを明確に伝えているか
		教材	17 事前の教材研究は、本時の目標や課題に合っていたか	26) 触察教材(具体物、実物)の準備があるか	28) どの子どもも学習に参加できる教材の工夫があるか	31) 実物や具体物、シンプルな図など課題や終わり方にわかりやすい工夫があったか
		ブライヤー(サブ)との連携	18 TTの役割分担は適切であったか	27) 子どもへの接し方について共通確認しているか	29) 子どもへの接し方について共通確認しているか	32) 個々の子どもへの対応の違いが明確にされ、接し方について共通確認しているか
		教科特性に応じた対応(教科名)	19			
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20 関心・意欲・態度を引き出す工夫はあったか	28) 学習活動を自分で最初から最後まで行うことができたか	30) 相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段の選択及び活用ができたか	33) 興味を示す具体的提示(ICT・見本)があったか
		思考・判断・表現	21 個人またはグループで考えたり、発表したりできる活動を構成したか	29) 聴覚的な手がかりから相手の意図や感情をとらえ、一人で、またはグループで考えたり、発表したりする活動ができたか	31) 1人で、またはグループで考える場の設定ができていたか 32) 友だちの発表を注目して聞いていたか	34) 考えを選んだり、友だちの発言を聞くことができたか 35) 何を考えるか具体的にわかったか 36) 単語の発言を受けとめ、助詞等を補ってもらえたか
		技能	22 必要な技能や資料等を活用する場面を設定したか	30) 手順やポイントが明確に理解できたか	33) 理解したことを文などにまとめたり、話合いの内容を確認するため書いて提示し読むなど、理解したことを言葉にすることができたか	37) 分担した作業に取り組み、責任をもって作業することができたか
		知識・理解	23 習得すべき知識や重要な概念等が理解できる工夫があったか	31) 模型や実物に触るなど能動的な学習活動ができたか	34) 流れなどから物事を総合的に判断することができたか	38) インターネットの技術や操作なども含め、実生活につながる学習ができたか

梅花女子大学心理こども学部紀要, 7

	キーワード	番号	評価の観点	4 肢体不自由	5 病弱	6 発達障がい・自閉症
1	事前準備	環境	1 授業をする環境が整っているか	1) 室温、湿度が適切に保たれているか 2) 教材教具や補助具の位置と、安全確認ができて いるか 3) 車イスが通れるスペースがあるか	1) 学習許可や室温、湿度、教材等の消毒済みの確 認をしているか 2) 学習場所、スペースの消毒や安全確認ができて いるか	1) 不必要な掲示はないか 2) 前時の板書がきれいに消されているか
		教材	2 必要な教材がそろっているか	4) 扱いやすい、軽い教材か 5) 教材等を固定する工夫があるか	3) 個々の子どもの教科書等で単元等の確認をし ているか	3) 個別の学習方法に対応できる教材か
		ツグティーチャー(サブ)との連携	3 T T (ティーミーティング) の 分担確認はできているか	6) 授業の流れとTTの役割分担の確認をしているか 7) 本時に担当する子どもの状況と課題の確認をし ているか	4) 本時に担当する子どもの状況と課題の確認をし ているか	4) 子どもへの接し方について役割分担しているか
2	授業開始	挨拶	4 授業開始の挨拶はできているか	8) 姿勢や気持ちを整えて挨拶することを意識させ ているか(終わりの挨拶も)	5) 自分の可能な姿勢で気持ちを整えて挨拶させて いるか(終わりの挨拶も)	5) 時間の切り替えを意識させることができたか (終わりの挨拶も)
		出欠・体調確認	5 出欠確認・体調の自己管理を指導 しているか	9) TTで共有しているか 10) 一人づつ顔色や表情、覚醒状態や体調を確認 しているか	6) 欠席理由を確実に把握しているか 7) 自己管理ができるよう、自己申告を受け、顔色 や副作用等の影響の確認をしているか	6) TTで共有しているか 7) 自分から申告する方法を指導しているか
		子どもの授業準備(構え)の確認	6 子どもの授業準備が出来ているか を確認しているか	11) ボンジョング・呼吸器等、個々の準備ができて いるか	8) 自分で授業準備ができていますか	8) 自分に必要なタイマー、カード等の授業準備が できているか
3	導入	前回のふりかえり	7 前の授業のふりかえりをしている か	12) 具体物(教材教具)を提示して確認したか	9) 個々の教科書やノートを確認したか	9) 前回の提示教材で、想起の工夫をしているか
		本時の説明	8 本時の課題を確認し意欲を高めて いるか	13) 休憩時間も含め、時間配分を表示し自分が取り 組む際のイメージができるよう工夫しているか	10) 本時の流れとともに、学習量を伝えているか	10) 本時の流れと到達目標をあらかじめ示している か
4	展開	学習内容の説明	9 ・説明の言葉は、聞き取りやすい、 適切な言葉を選んでいるか ・板書、掲示物の時間を分けて確 保しているか(掲示物の説明)	14) 聞きやすい側から話しているか 15) 簡潔な説明をしているか 16) 不適切な幼児ことばを使っていないか	11) 環境(病院)に応じた音量調整をしているか 12) 気持ちに配慮した言葉遣いをしているか	11) 音に敏感な子どもにも配慮はあるか 12) 具体的表現で説明のポイントと全体量を示して いるか 13) 禁止語や反応しやすい語を避けているか 14) 助詞を丁寧に説明しているか
		板書・掲示物	10 ・板書、掲示物の文字は、どの座 席からでも読めるか ・板書、掲示物の配置は、話の流 れにそって整理されているか	17) ICT(大型テレビ等)の位置は適切か 18) 板書と同じプリントや個別のPC等の用意がで きているか	13) 子どものそばでミニホワイトボードやICT(タブレッ ト端末)等を使用しているか 14) 板書と同じプリントの用意があるか	15) ICT等を活用してポイントを分かりやすく示 しているか 16) 黒板を分割活用しているか 17) 電子黒板の掲示や板書と同じプリントを用意し ているか
		机間指導	11 子どもの状況に応じて適切に机間 指導をしているか	19) 体調の急変・同じ体位が長くないか注意してい るか	15) 体調の急変・医療器械のトラブルに対応できる 用意があるか	18) 勘違い、聞き違いがないかを確認しているか 19) 気持ちや姿勢の立て直しを促しているか
		発問と評価	12 ・子どもの状況に応じた適切な発 問がされているか ・子どもの答えを肯定的に評価 し、全体に戻しているか	20) 4xスノードやスワイフ、VOCA等支援機器による答 えの工夫があるか 21) 達成感が得られるタイミングで的確にほめてい るか	16) 子どもの習熟度や理解の程度に応じた発問内容 になっているか 17) 「わかった」と「できた」を区別してほめてい るか	20) 指名する順序等の予告をしているか 21) 即時に良かった点を具体的にほめているか
5	結び	本時のふりかえり	13 まとめ内容は、課題や本時の目 標と一致しているか	22) まとめと本時のふりかえりは児童生徒の思いが 理解の内容を引き出しているか	18) 「わかったこと」「できたこと」の確認と、ま どめは本時の目標と一致しているか	22) まとめと本時の振り返りを入れたか
		次回予告と挨拶	14 ・次回の授業に言及しているか ・終わりの挨拶はできているか	23) 次回の予告を具体的にしているか	19) 次回の予告を具体的にしているか	23) 次回の予告を具体的に、心の準備をさせて いるか
6	授業の工夫	注目	15 子どもに正対しているか	24) 必要に応じ子どもに近づいているか	20) 必要に応じ子どもに近づいているか	24) 子どもとの距離を考えているか 25) 注意を向けさせる手立てを考えているか
		学習内容・学習量	16 ・学力差等に応じた学習内容の工 夫があるか ・個々の子どもの学習量は、適切 であったか	25) 個別の課題準備ができていますか	21) 個別の課題準備ができていますか	26) 達成感の持てるプリントの量や問題数に配慮し ているか 27) 集中できる時間を配慮しているか
		教材	17 事前の教材研究は、本時の目標や 課題に合っていたか	26) どの子どもも学習に参加できる教材の工夫があ るか	22) Drから使用許可のある教材であるか 23) 学習意欲を高める教材であるか	28) 特性を考慮しているか
		ツグティーチャー(サブ)との連携	18 T Tの役割分担は適切であったか	27) 児童生徒の個別担当は計画的に変えているか	24) 安全確認、課題の個別指導分担ができていますか	29) 子どもへの接し方について共通確認できている か
		教科特性に応じた対応 (教科名)	19			
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20 関心・意欲・態度を引き出す工夫 があったか	28) 興味を示す具体的提示(ICTや支援機器を活用) があったか	25) ICT等を活用し、間接的な体験ができる工夫があ ったか	30) 好きな物や関連付けるなど興味・関心が持てる よう、ICT等が活用されていたか
		思考・判断・表現	21 個人またはグループで考えたり、 発表したりできる活動を構成した か	29) 考えを選んだり、意思表示を表情や行動から読 み取ってもらえたか 30) 発言や意思表示ができる時間の余裕があったか 31) 可能な表現手段を使えたか	26) 友だちや教師と考えたことを深め、表現する時 間設定があったか	31) 何を考えるか明確に紙に書いて示されたか 32) 事前に関いたルールを守り、適切な行動や発言 ができたか 33) 発言のパターンが作られていたか
		技能	22 必要な技能や資料等を活用する場 面を設定したか	32) 手順やポイントを可能な方法で学習することが できたか	27) 状態に応じた方法で学習することができたか 28) 可能な範囲で、具体的に様々な教材を使い技能 を高めることができたか	34) 微細な動きや不器用さに対応した工夫があるこ とで技能が身についたか
		知識・理解	23 習得すべき知識や重要な概念等が 理解できる工夫があったか	33) 体験的な活動を通し、学習内容を理解するこ とができたか	29) 操作可能な方法で実際に体験しながら、学習内 容がわかったか	35) 実体験を通し適切に意味を理解することができ たか

[表7] 回答記入用紙 (大学生調査用)

[改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙 調査日 2014. . No. \_\_\_\_\_  
 ( )大学( )学部・( 回生)( 男・女)学籍番号( )名前( )

質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・2 聴覚障害・3 知的障害・4 肢体不自由・5 病弱・6 発達障害、自閉症  
 質問② 下の表の配慮事項で、知らない項目には0・知っている項目には1・経験したことがある項目には2を記入してください

	キーワード	番号	① 1 視覚障害	② 2 聴覚障害	③ 3 知的障害	④ 4 肢体不自由	⑤ 5 病弱	⑥ 6 発達障害・自閉症
			② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2
1	事前準備	環境	1) 1) 2) 2)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2)	1) 1) 2) 2)
		教材	2) 3)	4) 4) 5) 5)	4) 4)	4) 4) 5) 5)	3) 3)	3) 3)
		7*ティーター(サブ)との連携	3) 4)	6) 6)	5) 5)	6) 6) 7) 7)	4) 4)	4) 4)
2	授業開始	挨拶	4) 5)	7) 7)	6) 6)	8) 8)	5) 5)	5) 5)
		出欠・体調確認	5) 6) 7) 7)	8) 8) 9) 9)	7) 7) 8) 8)	9) 9) 10) 10)	6) 6) 7) 7)	6) 6) 7) 7)
		子どもの授業準備(構え)の確認	6) 8) 9) 9)	10) 10)	9) 9)	11) 11)	8) 8)	8) 8)
3	導入	前回のふりかえり	7) 10)	11) 11)	10) 10)	12) 12)	9) 9)	9) 9)
		本時の説明	8) 11)	12) 13)	11) 11)	13) 13)	10) 10)	10) 10)
4	展開	学習内容の説明	9) 12) 13) 13)	14) 14) 15) 15) 16) 16) 17) 17) 18) 18)	12) 12) 13) 13) 14) 14) 15) 15)	14) 14) 15) 15) 16) 16)	11) 11) 12) 12)	11) 11) 12) 12) 13) 13) 14) 14)
		板書・掲示物	10) 14) 15) 15) 16) 16)	19) 19) 20) 20)	16) 16) 17) 17) 18) 18) 19) 19)	17) 17) 18) 18)	13) 13) 14) 14)	15) 15) 16) 16) 17) 17)
		机間指導	11) 17) 18) 18)	21) 21)	20) 20) 21) 21)	19) 19)	15) 15)	18) 18) 19) 19)
		発問と評価	12) 19) 20) 20)	22) 22) 23) 23)	22) 22) 23) 23)	20) 20) 21) 21)	16) 16) 17) 17)	20) 20) 21) 21)
5	結び	本時のふりかえり	13) 21)	24) 24) 25) 25)	24) 24) 25) 25)	22) 22)	18) 18)	22) 22)
		次回予告と挨拶	14) 22)	25) 25)	26) 26)	23) 23)	19) 19)	23) 23)
6	授業の工夫	注目	15) 23)	26) 26)	27) 27) 28) 28)	24) 24)	20) 20)	24) 24) 25) 25)
		学習内容・学習量	16) 24) 25) 25)	27) 27)	29) 29) 30) 30)	25) 25)	21) 21)	26) 26) 27) 27)
		教材	17) 26)	28) 28)	31) 31)	26) 26)	22) 22) 23) 23)	28) 28)
		7*ティーター(サブ)との連携	18) 27)	29) 29)	32) 32)	27) 27)	24) 24)	29) 29)
		個別特性に応じた対応(教科名)	19) _____	_____	_____	_____	_____	_____
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20) 28)	30) 30)	33) 33)	28) 28)	25) 25)	30) 30)
		思考・判断・表現	21) 29)	31) 31) 32) 32)	34) 34) 35) 35) 36) 36)	29) 29) 30) 30) 31) 31)	26) 26)	31) 31) 32) 32) 33) 33)
		技能	22) 30)	33) 33)	37) 37)	32) 32)	27) 27) 28) 28)	34) 34)
		知識・理解	23) 31)	34) 34)	38) 38)	33) 33)	29) 29)	35) 35)

[表8] 回答記入用紙 (初任者調査用)

☆[改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙 \_\_\_\_\_年 月 日 No. \_\_\_\_\_

( ) 支援学校(幼・小・中・高)学部・( )年所属(男・女)名前( )

教職経験年数( )年目・支援学校経験年数( )年目 教科( )

質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・2 聴覚障害・3 知的障害・4 肢体不自由・5 病弱・6 発達障害、自閉症

質問② 下の表の配慮事項で、知らない項目には0・知っている項目には1・経験したことのある項目には2を記入してください

	キーワード	番号	① 1 視覚障害	① 2 聴覚障害	① 3 知的障害	① 4 肢体不自由	① 5 病弱	① 6 発達障害・自閉症
			② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2	② 配慮事項 0/1/2
1	事前準備	環境	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)
		教材	3) 4) 5)	4) 5)	4) 5)	4) 5)	3) 4) 5)	3) 4) 5)
		ツィーター(サブ)との連携	4) 5) 6) 7)	6) 7)	5) 6) 7)	6) 7)	4) 5) 6) 7)	4) 5) 6) 7)
2	授業開始	挨拶	4) 5) 6) 7)	7) 8) 9) 10)	6) 7) 8) 9) 10)	8) 9) 10) 11)	5) 6) 7) 8) 9) 10)	5) 6) 7) 8) 9) 10)
		出欠・体調確認	6) 7) 8) 9)	8) 9) 10) 11)	7) 8) 9) 10) 11)	9) 10) 11) 12)	6) 7) 8) 9) 10) 11)	6) 7) 8) 9) 10) 11)
		子どもの授業準備(構え)の確認	8) 9) 10) 11)	10) 11) 12) 13)	9) 10) 11) 12) 13)	11) 12) 13) 14)	8) 9) 10) 11) 12) 13)	8) 9) 10) 11) 12) 13)
3	導入	前回のふりかえり	7) 8) 9) 10) 11)	11) 12) 13) 14) 15)	10) 11) 12) 13) 14) 15)	12) 13) 14) 15) 16)	9) 10) 11) 12) 13) 14) 15)	9) 10) 11) 12) 13) 14) 15)
		本時の説明	8) 9) 10) 11) 12)	12) 13) 14) 15) 16)	11) 12) 13) 14) 15) 16)	13) 14) 15) 16) 17)	10) 11) 12) 13) 14) 15) 16)	10) 11) 12) 13) 14) 15) 16)
4	展開	学習内容の説明	12) 13) 14) 15) 16) 17) 18)	14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)	12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)	14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)	11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)	11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)
		板書・掲示物	14) 15) 16) 17) 18)	19) 20) 21) 22) 23)	16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23)	17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24)	13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23)	15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24)
		机間指導	17) 18) 19) 20)	21) 22) 23) 24) 25)	20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30)	19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30)	15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30)	18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30)
		発問と評価	19) 20) 21) 22)	22) 23) 24) 25) 26)	22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
5	結び	本時のふりかえり	13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
		次回予告と挨拶	14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21)	25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
6	授業の工夫	注目	15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22)	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
		学習内容・学習量	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
		教材	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	31) 32) 33) 34) 35)	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
		ツィーター(サブ)との連携	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	32) 33) 34) 35)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
		教材特性に応じた対応(教科名)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	32) 33) 34) 35)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	30) 31) 32) 33) 34) 35)	33) 34) 35)	28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	30) 31) 32) 33) 34) 35)
		思考・判断・表現	21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	32) 33) 34) 35)	35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	31) 32) 33) 34) 35)
		技能	22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	33) 34) 35)	37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50)	32) 33) 34) 35)	27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	34) 35)
		知識・理解	23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	34) 35)	38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50)	33) 34) 35)	29) 30) 31) 32) 33) 34) 35)	35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50)

[表9]回答記入用紙（大学生 特別支援教育演習・サポート演習受講者用 5段階チェック）

[改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙		調査日		No.				
梅花女子大学( )学部・( 回生)学籍番号( )								
名前( )								
質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・2 聴覚障害・3 知的障害・4 肢体不自由・5 病弱・6 発達障害・自閉症								
質問② 下の表の配慮事項について、1していない・2気がつけばする・3時々する・4できるだけしている・5常にしているを記入してください								
	キーワード	番号	①1 視覚障害	①2 聴覚障害	①3 知的障害	①4 肢体不自由	①5 病弱	①6 発達障害・自閉症
			②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2
1	事前準備	環境	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2)	1) 2)
		教材	3) 4) 5)	4) 5)	4) 5)	4) 5)	3) 4)	3) 4)
		サブティター(サブ)との連携	4) 5) 6) 7)	5) 6)	5) 6)	6) 7)	4) 5)	4) 5)
2	授業開始	挨拶	5) 6) 7)	7) 8) 9)	6) 7) 8)	8) 9) 10)	5) 6) 7)	5) 6) 7)
		出欠・体調確認	6) 7) 8) 9)	8) 9) 10)	7) 8) 9)	9) 10) 11)	6) 7) 8)	6) 7) 8)
		子どもの授業準備(構え)の確認	8) 9) 10) 11)	10) 11) 12)	9) 10) 11)	11) 12) 13)	8) 9) 10)	8) 9) 10)
3	導入	前回のふりかえり	10) 11) 12)	11) 12) 13)	10) 11) 12)	12) 13) 14)	9) 10) 11)	9) 10) 11)
		本時の説明	11) 12) 13)	12) 13) 14)	11) 12) 13)	13) 14) 15)	10) 11) 12)	10) 11) 12)
4	展開	学習内容の説明	12) 13) 14) 15) 16) 17) 18)	14) 15) 16) 17) 18)	12) 13) 14) 15)	14) 15) 16)	11) 12)	11) 12) 13) 14)
		板書・掲示物	14) 15) 16)	19) 20)	16) 17) 18) 19)	17) 18)	13) 14)	15) 16) 17)
		机間指導	17) 18)	21) 22)	20) 21)	19) 20)	15) 16)	18) 19)
		発問と評価	19) 20)	22) 23)	22) 23)	20) 21)	16) 17)	20) 21)
5	結び	本時のふりかえり	21) 22) 23)	24) 25)	24) 25)	22) 23)	18) 19)	22) 23)
		次回予告と挨拶	22) 23) 24)	25) 26)	26) 27)	23) 24)	19) 20)	23) 24)
6	授業の工夫	注目	23) 24) 25)	26) 27)	27) 28)	24) 25)	20) 21)	24) 25)
		学習内容・学習量	24) 25)	27) 28)	29) 30)	25) 26)	21) 22)	26) 27)
		教材	26) 27) 28)	28) 29)	31) 32)	26) 27)	22) 23)	28) 29)
		サブティター(サブ)との連携	27) 28) 29)	29) 30)	32) 33)	27) 28)	24) 25)	29) 30)
		教科特性に応じた対応(教科名)	29) 30)	30) 31)	33) 34)	31) 32)	26) 27)	31) 32) 33)
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	28) 29) 30)	30) 31)	33) 34)	28) 29)	25) 26)	30) 31)
		思考・判断・表現	29) 30) 31)	31) 32)	34) 35) 36)	30) 31)	26) 27)	31) 32) 33)
		技能	30) 31) 32)	33) 34)	37) 38)	32) 33)	27) 28)	34) 35)
		知識・理解	31) 32) 33)	34) 35)	38) 39)	33) 34)	29) 30)	35) 36)